

小学六年

適性検査 D

解答と解説

1

問題4	問題3	問題1
ウ	ウ	B
問題2		
あ 99,170 (トン)		
い 1.2 (倍)		
う 31.2 (%)		
え 51.7 (%)		
お 3 (つ)		

問題5 (例)

1990年代以前は米国からの輸入が中心だったが、チリやノルウエーでの養殖が増加したことで、1990年代以降はチリやノルウエーからの輸入が増えていった。

(例)

問題6

よ	し	と	魚	消	で	時	
い	て	も	を	費	紹	期	魚
と	く	あ	焼	し	介	を	に
思	れ	る	く	て	し	魚	は
う	る	の	こ	も	た	ご	旬
。	調	で	と	ら	り	と	の
	理	、	で	え	す	に	時
	器	そ	に	る	る	動	期
	具	の	お	よ	こ	画	が
	も	よ	い	う	と	で	あ
い	う	や	に	で	公	る	
っ	な	後	な	、	開	の	
し	手	片	る	一	し	で	
よ	間	づ	と	年	た	、	
に	や	け	思	を	り	一	
紹	負	が	う	通	、	番	
介	担	大	。	じ	魚	お	
し	を	変	ま	て	売	い	
て	解	な	た	魚	り	し	
も	消	こ	、	を	場	い	

2

問題三 (例)	問題一
ル 自	ウ
ア 分	
ツ が	
プ 追	
し い	
て つ	問題二
し け	停
ま な	滞
う く	期
	問題四
る	イ・オ
ほ	
ど	
ラ	
イ	
バ	
ル	
が	
レ	
ベ	

30

20

140

100

60

20

問題五																(例)	
ち	の	こ	た	く	し	を		取	を	く		筆	も	レ	大	と	
た	効	と	め	ら	て	起	私	る	い	ら	私	者	っ	ッ	切	は	大
い	果	を	の	い	い	こ	は	よ	つ	い	は	は	て	シ	に	大	き
と	が	客	元	で	る	せ	一	う	始	休	筆	述	物	ユ	す	切	な
思	最	観	気	き	こ	な	度	に	め	む	者	べ	事	す	る	だ	こ
い	大	的	が	て	と	い	休	し	る	の	の	て	に	る	べ	が	と
ま	限	に	ど	い	に	性	ん	た	か	が	意	い	取	こ	き	、	を
す	に	判	れ	る	向	格	で	い	を	適	見	ま	り	と	こ	適	成
。	発	断	く	か	け	だ	し	と	き	度	に	す	組	で	と	度	し
350	揮	す	ら	と	て	か	ま	思	ち	な	賛	。	ん	ふ	で	に	と
	で	る	い	い	今	ら	う	い	ん	の	成		で	た	あ	休	げ
	き	よ	残	う	の	で	と	ま	と	か	で		い	た	り	む	る
	る	う	っ	こ	時	す	な	す	決	を	す		け	び	、	こ	た
	状	に	て	と	点	。	か	。	め	考	。		る	力	心	と	め
	態	心	い	や	で	自	な		て	え	た		よ	強	身	も	に
	を	が	る	、	努	分	か		か	、	だ		う	く	と	同	努
	い	け	か	努	力	が	次		ら	次	し		に	集	も	じ	力
	つ	、	と	力	が	目	の		休	の	、		な	中	に	よ	す
	も	努	い	す	ど	標	行		み	行	ど		る	力	リ	う	る
保	力	う	る	れ	と	動		200	を	動	れ		100	と	フ	に	こ
			300													20	

(配点)

① 問題1……2点 問題2、問題3……各4点 問題4、問題5……各5点 問題6……10点

② 問題一、問題二……各3点 問題三、問題四……各4点 問題五……40点

③ 問題四……順不同・完全解答

計100点

【解説】

① 日本の食卓と魚をテーマにした問題

問題 1 A1 情報を獲得する 知識 再現する

【資料 2】の説明をもとに、【資料 1】の中から遠洋漁業に
あたるものを選ぶ問題です。

【資料 2】の遠洋漁業の説明から、1970年代にあった2
度の石油危機で漁獲量が減少したとあることから、1970年
代初めには漁獲量が最大でしたがその後急激に漁獲量が減少し
たBがあてはまると考えられます。

問題 2 B1 情報を獲得する 再現する 調べる

【資料 3】を読み取って答える問題です。

(あ) 2022年のマアジの漁獲量は2012年の74%
です。 $134014 \times 0.74 = 99170.36$ となり、小数第一位を四捨五入
すると99,170(トン)となります。

(い) 長崎県の2012年漁獲量を基準とします。
2012年は41,802トン、2022年は51,234トンです。よつ
て、 $51234 \div 41802 = 1.22\dots$ となり、小数第二位を四捨五入す
ると1.2(倍)となります。

(う) 2012年の漁獲量を確認すると、長崎県は
41,802トン、全国合計は134,014トンです。よって、 $41802 \div$
 $134014 \times 100 = 31.19\dots$ となり、小数第二位を四捨五入すると
31.2(%)となります。

(え) 2022年の漁獲量を確認すると、長崎県は
51,234トン、全国合計は(あ)で求めた99,170トンです。よつ
て、 $51234 \div 99170 \times 100 = 51.66\dots$ となり、小数第二位を四捨
五入すると51.7(%)となります。

(お) 2012年と2022年の1～10位のうち、順位
も府県も同じものは次のようになります。

1位の長崎県、2位の島根県、8位の石川県の3つです。

2012年

順位	都道府県	漁獲量(トン)
1	長崎県	41,802
2	島根県	31,219
3	福岡県	7,779
4	愛媛県	5,885
5	鳥取県	5,883
6	茨城県	4,223
7	千葉県	3,734
8	石川県	3,486
9	三重県	3,122
10	富山県	2,535

2022年

順位	都道府県	漁獲量(トン)
1	長崎県	51,234
2	島根県	12,760
3	愛媛県	4,708
4	鳥取県	3,385
5	宮崎県	3,376
6	鹿児島県	2,747
7	三重県	2,489
8	石川県	2,055
9	山口県	1,720
10	大分県	1,636

問題 3

B 1 情報を獲得する 再現する 調べる

ラニーニャ現象について正しい語句を選ぶ問題です。
 ラニーニャ現象とは、南アメリカのペルー沖から赤道太平洋域にかけて、海面水温が平年より低くなり、その状態が数か月間続く現象です。この現象が起これと、日本をふくむ西太平洋周辺では海水温の上昇によって、気温が上昇する傾向があります。よって、正しい組み合わせはウです。

問題 4

B 1 情報を獲得する 特徴的な部分に注目する 調べる

【資料 5】から読み取れる内容を選ぶ問題です。

ア サバ類は変わらず、ブリ類は増加しているので誤りです。
 イ サケ・マス類の1990年の漁獲量は22万トンなので、 $22 \times 1/3 \approx 7.33$ より、その3分の1は約7万トンです。
 ウ 2023年の漁獲量は6万トンなので誤りです。

エ 1990年の漁獲量合計957万トンの3分の1は、 $957 \times 1/3 \approx 319$ より、319万トンです。イワシ類の漁獲量は411万トンなので、3分の1以上です。また、2023年の漁獲量合計293万トンの3分の1は、 $293 \times 1/3 \approx 97.66$ より、約98万トンです。イワシ類の漁獲量は94万トンなので、3分の1以下です。よって、正しいです。

オ 1990年の漁獲量合計にしめるカツオ類の割合は $33 \div 957 \approx 0.033$ で約3%です。同様に、2023年の漁獲量合計にしめるカツオ類の割合は $21 \div 293 \approx 0.071$ で約7%です。よって、1990年より2023年の方が割合は大きくなっています。また、1990年の漁獲量合計にしめるタラ類の割合は $93 \div 957 \approx 0.097$ で約9%です。同様に、

2023年の漁獲量合計にしめるタラ類の割合は $18 \div 293 \approx 0.061$ で約6%です。よって、1990年より2023年の方が割合は小さくなっています。したがって、誤りです。

問題 5

B 2 情報を獲得する 特徴的な部分に注目する 関係づけ

【資料 6】・【資料 7】を参考に、日本のサケ・マス類の輸入先がどのように変化したか、その理由をふくめて答える問題です。

【資料 6】から、1989年頃までは、アメリカからの輸入が中心だったことがわかります。そして、その後、1990年以降はチリからの輸入が徐々に増えていき、2017年にはチリが中心となったことがわかります。また、【資料 7】から、1990年頃からチリやノルウェーでサケ・マス類の養殖が増えたことがわかります。よって、日本の輸入先の変化は、チリなどの養殖が増えたことに関連していると考えられます。
 ※この問題では、次のポイントを中心に見ます。

内容等について (3点)

次のような視点で採点します。誤り1か所につき、1点の減点となります。誤りは、答案用紙に波線で指摘をしています。説明が書かれていない場合は0点となります。

- ・ サケ・マス類の輸入先の変化について、理由と共に書かれているか
- ・ 内容に過不足がないか
- ・ 文の論理構成、主語や述語の関係は正しいか、一文が途中で終わっていないか
- ・ 同内容の不必要な反復がないか

形式等について（2点）

内容に関する観点が0点でない場合、次のような視点で採点します。誤り1か所につき、1点の減点となります。誤りは、答案用紙に直線で指摘をしています。

- ・誤字や脱字がないか
- ・文法的な誤りがないか
- ・語句や言葉の使い方に誤りがないか
- ・常体、敬体の混在がないか
- ・不適切な話し言葉の使用がないか
- ・消し残りなどで字が見づらくないか

問題6 C1 情報を獲得する 理由 関係づけ

魚介類の消費量が減少している課題に対して、自分が考える具体的な解決策を説明する問題です。

【資料8】から、消費者は魚介類に対して「価格が高い」「調理が面倒」という印象を抱いていることが読み取れます。たとえば、先生が「骨を取って調理しやすくした加工品の研究も進んでいます。」と述べている部分に注目すると、調理が必要ない、もしくは簡単に調理できる加工品が増えれば、魚介類の消費が増えると考えられます。また、価格に対しては、魚介類にはそれぞれ旬の時期があり、旬になるとその魚介類の漁獲量が大幅に増えるため、一般的に価格は低下します。そのため、消費者に旬の魚が安く買えることを知ってもらうのも効果的です。

※百字未満の場合、採点対象としません。

※この問題では、次のポイントを中心に見ます。

内容等について（6点）

次のような視点で採点します。誤り1か所につき、2点の減点

となります。誤りは、答案用紙に波線で指摘をしています。

説明が書かれていない場合は0点となります。

・魚介類の消費量の減少について、具体的な解決策が書かれているか

- ・内容に過不足がないか
- ・文の論理構成、主語や述語の関係は正しいか、一文が途中で終わっていないか
- ・同内容の不必要な反復がないか

形式等について（4点）

内容に関する観点が0点でない場合、次のような視点で採点します。1つ目の誤りは2点の減点となります。2つ目以降の誤りは1か所につき、1点の減点となります。誤りは、答案用紙に直線で指摘をしています。

- ・誤字や脱字がないか
- ・文法的な誤りがないか
- ・語句や言葉の使い方に誤りがないか
- ・常体、敬体の混在がないか
- ・不適切な話し言葉の使用がないか
- ・消し残りなどで字が見づらくないか
- ・一行目の一マス下げたところから書かれているか
- ・一マスに一文字が書かれているか
- ・正しいマス目の使い方かどうか

2 自分の意見を記述する問題

問題一 B1 情報を獲得する 比較 関係づけ

接続語を空欄に補充する問題です。接続語によってどの部分とどの部分が接続されているかを確認し、それぞれの内容の関係からどの接続語がふさわしいかを確定していきましょう。

A をふくむ一文には、「ただひたすら努力するだけでは、大きなことは成しとげられません」とあります。一つ前の文では「努力することなしに、大きなことを成しとげた人などほとんどいない」とありますから、反対の内容が書かれていることがわかります。したがって、「しかし」が入ります。

B をふくむ一文には、「適度に休むほうがいい」とあります。これに対して一つ前の文には「重苦しい疲労がいつそう溜まっていくばかり」と書かれています。疲労が溜まる、という前の文の内容が、適度に休むほうがいい、という後の文の理由となっていますから、「ですから」が入ります。

C をふくむ一文には、「よみがえったパワーで力強くライバルたちを追いつくこともできる」と書かれています。これに対して一つ前の文には「ふたたび元氣を取り戻せば、先に行つたライバルにすぐに追いつくことができるでしょう」とあります。休んだことによつてできるようになったことが並べて書かれていますから、「また」が入ります。

以上のことから、ウが正解となります。

問題二 B1 情報を獲得する 関係づけ 置き換え

線①と同じ状況は、6 ページ上段に「いくら努力しても伸び悩んでしまう。これ以上、どう努力すればいいかわからない」と説明されています。これに続く部分でこのような時期の

ことを「停滞期」と説明しています。7 ページ上段にこれに近い内容の「空回り」という言葉がありますが、この言葉は線①の最後にある「時」という言葉の内容をふくんでいないため、正解にはなりません。

問題三 B1 具体・抽象 関係づけ 置き換え

「人は決してそう遠くまでは行かない」について、7 ページ上段でどういう意味か説明されています。ここには、ライバルに先を越されてしまうのではないかと心配する人もいるかもしれないが、追いつけないほど先に行かれることはないから心配はいらない、という内容が書かれています。◎の文にあてはまるように、「(自分が休むことによつて) ライバルに追いつけなくなる」ことを盛り込んでまとめればよいでしょう。

※二十字未満の場合、採点対象としません。

※この問題では、次のポイントを中心に見ます。

内容等について (2点)

誤り1か所につき、1点の減点となります。誤りは、答案用紙に波線で指摘をしています。

・「人は決してそう遠くまでは行かない」について、筆者が読者に伝えたい内容が書かれているか

・内容が過不足なく書かれているか

・文の論理構成、主語や述語の関係は正しいか、一文が途中で終わっていないか

形式等について (2点)

内容等が0点でない場合、次のような視点で採点します。誤りは1か所につき、1点の減点となります。誤りは、答案用紙に

直線で指摘をしています。

- ・ にあてはまる形で書かれているか
- ・ 誤字や脱字がないか
- ・ 文法的な誤りがないか
- ・ 語句や言葉の使い方に誤りがないか
- ・ 常体、敬体の混在がないか
- ・ 不適切な話し言葉の使用がないか
- ・ 消し残りなどで字が見えづらくないか
- ・ 一マスに一字が書かれているか

問題四 B2 比較 関係づけ 推論

ア 6 ページ上段で説明されているように、筆者は「努力すること」も大切だし、同時に「休むこと」も大切だと考えており、どちらが（より）大切か、ということについては言及していません。したがって、誤りです。

イ 6 ページ上段から下段にかけて、レオナルド・ダ・ヴィンチの言葉を引用し、休むと、活力と元氣を取り戻すことができ、ふたたび仕事に戻った時に良い判断ができるようになるということが説明されています。したがって、合っています。

ウ 7 ページ上段で、筆者は、ライバルと差がつきすぎることはないから心配はいらないと述べていて、適度に休みを切り上げることについて言及していません。したがって、誤っています。

エ ライバルもいつかは休む、ということについては述べられておらず、また、あきらめずに努力を続けて追いつく、という話についても触れられていません。したがって、誤りです。

オ 6 ページ下段に「適度に休みを取り入れることが、継続的

に努力していくためのコツです」と述べられています。また、7 ページ上段では適度な休みが取れていない状況では気持ちが空回りするだけだ、とも述べられています。したがって、合っています。

問題五 C2 理由 置き換え 推論

文章中では「休むこと」の利点について説明されていますが、実際に自分の生活に「休むこと」を取り入れるにあたつての注意点について、あなたの意見を述べる問題です。

第一段落では、文章に書かれた「休むこと」の利点についてまとめます。

第二段落では、「休むこと」を生活に取り入れるうえでの注意点について、あなたの考えをまとめます。第一段落でまとめた筆者の考えをふまえて、それに対する意見やあなたがしようと思うことをわかりやすく書きましょう。

第三段落では、第二段落で述べたことについての理由を書きます。

第二段落で述べたことをふまえて、どのような目的で、どのように「休むこと」を取り入れようと考えているかという内容まで書くことで、わかりやすく伝わります。

※三百字未満の場合、採点対象としません。

※この問題では、次のポイントを中心に見ます。

内容等について (30点)

誤り1か所につき、5点の減点となります。誤りは、答案用紙に波線で指摘をしています。

第一段落について

・「休むことの利点」について本文で示された内容がまとめら

れているか

- ・ 内容が過不足なく書かれているか
- ・ 文の論理構成、主語や述語の関係は正しいか、一文が途中で終わっていないか
- ・ 同内容の不必要な反復がないか

第二段落について

- ・ 生活に「休むこと」を取り入れるうえでの注意点について、自分の意見や具体的に取りたいと思う行動が書かれているか
- ・ 内容が過不足なく書かれているか
- ・ 文の論理構成、主語や述語の関係は正しいか、一文が途中で終わっていないか
- ・ 同内容の不必要な反復がないか

第三段落について

- ・ 第二段落に書いたことについての理由が書かれているか
- ・ 内容が過不足なく書かれているか
- ・ 文の論理構成、主語や述語の関係は正しいか、一文が途中で終わっていないか
- ・ 同内容の不必要な反復がないか

形式等について (10点)

内容等が0点でない場合、次のような視点で採点します。1つ目の誤りは5点の減点となります。2つ目以降の誤りは1か所につき、1点の減点となります。誤りは、答案用紙に直線で指摘をしています。

- ・ 誤字や脱字がないか
- ・ 文法的な誤りがないか
- ・ 語句や言葉の使い方に誤りがないか
- ・ 常体、敬体の混在がないか

不適切な話し言葉の使用がないか

- ・ 消し残りなどで字が見えづらくないか
- ・ 原稿用紙の使い方に誤りがないか
- ・ 指定された段落数で書かれているか